

9/1 (木)

訓練の流れ

8:29 緊急地震速報



「訓練、地震です。訓練、地震です。強い揺れに警戒してください（繰り返し）」

8:30 地震発生

震源が富士市に近い場合、緊急地震速報が間に合わないこともあります。次の取組を通して、地震に備えましょう。



「訓練、地震発生（繰り返し）（サイレン）」

8:33 津波警報発表 津波避難対象区域に避難指示を発令



「（サイレン）訓練、大津波警報が発表されました。海岸付近の方や津波避難対象区域の方は、高台に避難せよ（繰り返し）」

「訓練広報。ただ今の地震は震度6強でした。火の元を確認し、火災の発生に注意してください。また、今後の情報に注意してください。こちらは広報ふじです」

8:33 から

訓練のポイント

- テレビ・ラジオ・携帯電話などで緊急地震速報を確認する
実際に机の下など危険を避けられる場所に行き、頭や身を守る
強い揺れがあると、ガスは自動で止まります。無理をしてガスコンロの火を消しに行く必要はありません。

- 倒れそうな家具や家電がないか確認する
ふだんから身を守る行動がとれないほどの強い揺れをイメージし、家の中の危ないところなどを確認する（耐震補強について詳しくは4ページを見てください）。

- 津波避難対象区域や急傾斜地（がけ）の近くに住んでいる人は、避難目標地点に避難する
停電した想定で通電火災に備え、ブレーカーを落とす
家族の安否確認（けががないかなどを確認）を行う
防災週間（8月30日～9月5日）中は、被災地の人の安否確認を行う「災害伝言ダイヤル（☎171）」や、インターネットを利用した「災害用伝言板ウェブ（web171）」の体験利用ができます。

9月1日（木）は、富士市総合防災訓練

自分の身を守るために、みんなで参加しよう

大正12年（1923年）に発生した関東大震災を教訓として、9月1日は「防災の日」、8月30日（9月5日）が「防災週間」と定められています。
今年の9月1日は、南海トラフ地震が発生したことを想定し、市内全域で防災訓練を実施します。
皆さん一人一人が災害の状況をイメージし、自宅などの防災対策も進めましょう。

問合せ／防災危機管理課
☎(55)2715
📠(51)2040
bousai@div.city.fuji.shizuoka.jp



- 組（班）単位で安否確認を行い、町内会・区の集合場所や本部に報告する（詳しくは3ページを見てください）
町内会・区の自主防災活動（防災訓練）に参加する
9月1日以外に実施する町内会・区もあります。
訓練の内容は町内会・区によって違います。
防災訓練の同報無線は、災害のときと同じ順番で放送します。

◆このページは、子どもや外国生まれの人も読みやすいように、ふりがなを付けています。

## 私の家の安全対策

大きな地震の後でも、住み慣れた自宅で生活するために、対策をしておきましょう。

### 家具類の転倒防止

今までに起きた地震では、家具の転倒や落下、ガラスの破損などで多くの方がけがをし、命を落としました。災害が起きたときをイメージして、自宅の危険な場所の対策をしましょう。

例えば…こんなところをチェック!

- リビングやキッチンの家具を固定しているか
- 布団やベッドの近くに大きな家具を置いていないか
- 窓ガラスが飛び散らないよう対策できているか

**自分で固定ができない人は**  
富士市では、高齢者や障害者などの世帯を対象に「家具固定推進事業」を実施しています。防災危機管理課または各地区まちづくりセンターから申込みができます。▲詳しくはこちら



### 非常用備蓄品の準備

水・食料、トイレは7日以上分の備蓄をお願いします。

### 一人分の自安(7日分)

飲料水



1日3リットル  
7日で21リットル

食料



1日3食  
7日で21食

携帯トイレ

1日5回分  
7日で35回分

家族の人数に応じて、必要数を確保しましょう。

### ローリングストック法(回転備蓄)で!

日常使う食料品を少し多めに買い置きして、消費した分だけ補充していく方法。古いものから先に使うように収納しておく、うまく循環できます。

**避難にきた人の受付**  
受付を複数つくり、受付担当者はマスクやフェイスシールドなどをつける  
集まったら、まず体調をチエックする  
消毒液を置いて、手指消毒を徹底する  
人が並ぶときは、人と人が触れ合わないよう呼びかける

- 作業するときは小まめに消毒する
- 密を避けるため、地域の連絡体制を整える
- マスク
- フェイスシールド
- 体温計
- 拡声器
- 間仕切り など

### 事前に準備するもの

**訓練を計画するときのポイント**  
感染症対策をしながらの防災訓練  
被害を減らす自主防災活動と感染症対策を両立させるために、必要な活動計画を地域で話し合います。

## 安否確認の方法を再確認しましょう!

様々な自主防災活動の中で最初にするべきことが、住民の「安否確認」です。密を避け、すぐに安否確認できるよう、防災訓練のときに方法を確認しておきましょう。

### 1 「無事な人」が無事を報告

安否確認の目的は、けが人などの「対応が必要な人」をはっきりさせることです。「無事な人」の報告が集まることで、対応の必要な人が分かります。※「報告がない=対応が必要」と考えます。



### 2 自分から報告に行く

自分が無事かどうかは町内の役員などに聞かれるまで待つのではなく、自分から報告します。これにより、町内全体の情報がすぐに集まり、応急対策に早く取りかかることが出来ます。報告先や方法を前もって確認しておきましょう。



### 3 事前に安否確認シートを作成しておく

報告するときは、家族構成とその安否や、住宅の被害状況などを知らせます。このとき、多くの情報が集まるため、災害が起こる前に世帯構成をまとめた名簿(安否確認シート)を作っておくことで、災害のときに素早い確認と情報の整理ができます。

安否確認シートについて詳しくは、市ウェブサイトをご覧ください▶

